
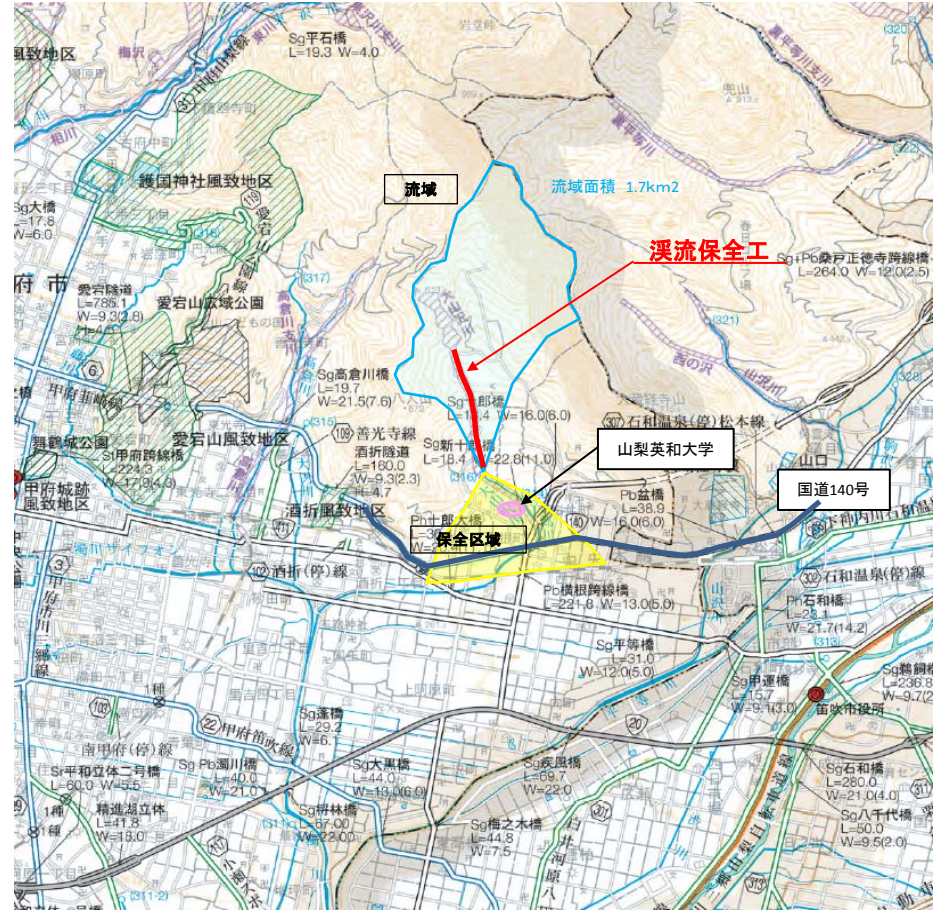


平成27年度 公共事業事後評価調書

(区分) 国補・県単

1. 事業説明シート(1)

事業名		砂防事業 [通常砂防事業 (国補)]		事業箇所	甲府市横根町	地区名	大山沢川	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	H3年度	(2) 事業期間	H3年度~H22年度		(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,500百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景					(8) 事業位置図等				
<p>大山沢川は、一級河川十郎川に流入する流域面積1.7km²、河床勾配1/5の非常に急勾配な土石流危険渓流である。流域は地形が急峻で地質も脆弱なため、山腹崩壊が進み、不安定土砂が渓流に堆積するとともに、渓流の縦横浸食が進んでいた。下流には人家があり、さらに国道、鉄道があるため、台風や集中豪雨等による土砂災害の被害は甚大なものと予想されていた。このため、渓流保全工の整備により流出土砂による被害を未然に防止し、保全区域住民の安全安心を図ることとした。</p>									
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果									
(事業評価未実施)									
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・土石流被害の防止 <input type="checkbox"/> 副次目標 ・なし <input type="checkbox"/> 副次効果 ・被災時の被害波及の防止									
(7) 整備内容 (目標達成の方法)									
渓流保全工 L=1,320m H=2.6m									

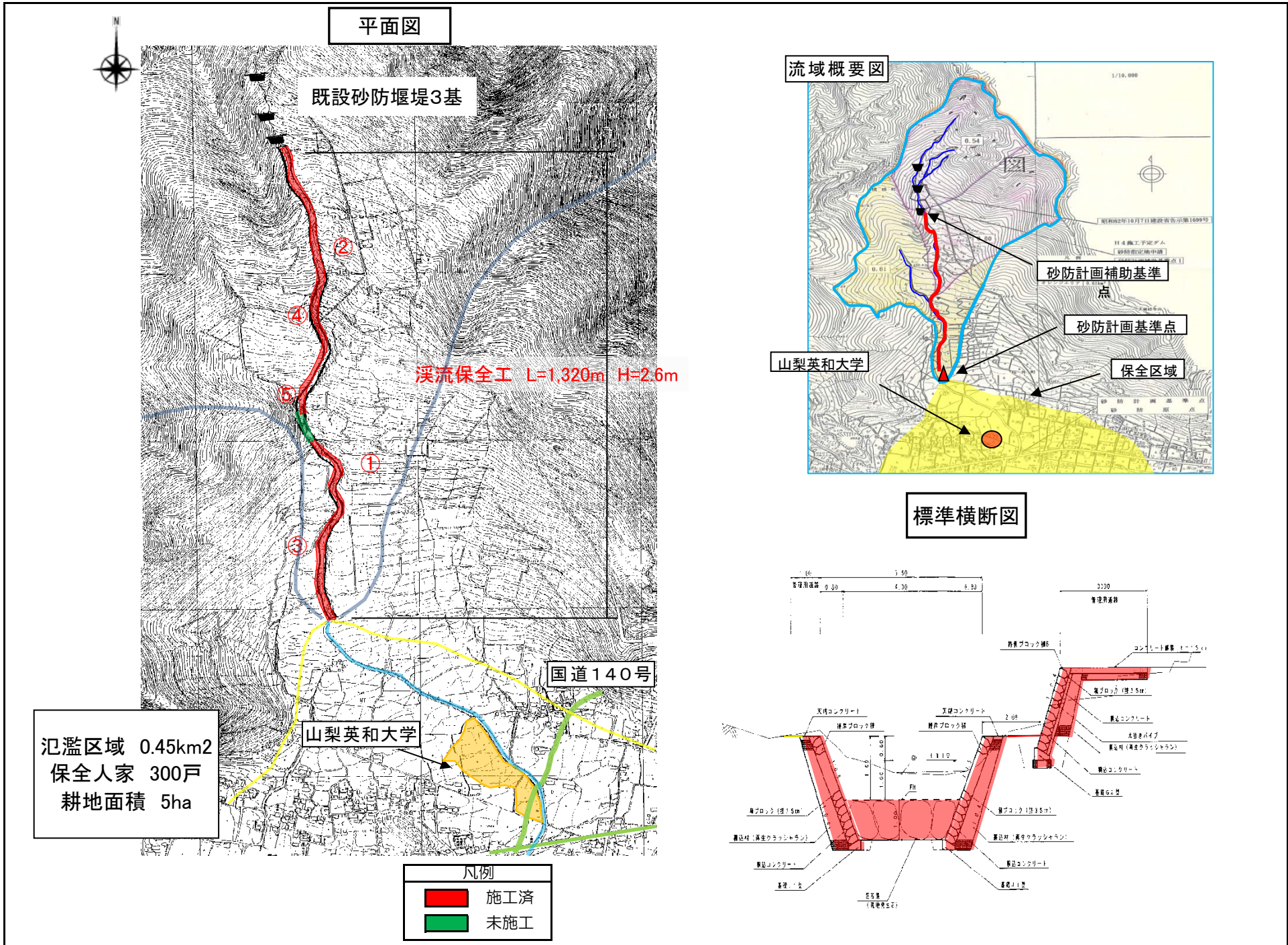
2. 評価シート（1）

(1)事業貢献度 〈(良) 不良〉	(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有) 無〉																												
<p>(理由) 平成23年の台風12号（時間最大21mm、日雨量79mm）、15号（時間最大21mm、日雨量125mm）による猛烈な豪雨に見舞われたが、溪流からの土砂流出はなく、溪岸の安定性が確保され、土砂災害や溢水等の被害が発生しなかった。したがって、安全性の向上に大きく貢献していると判断される。</p> <p>①主要目標 土石流被害の防止</p> <table border="1" data-bbox="197 446 1102 596"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過去の災害実績、緊急度、災害発生危険度（評価法）</td> <td>12 → 設定せず</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>被害軽減額</td> <td>6,720百万円→設定せず</td> <td>6,452百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険度について、対策箇所の一部整備が完了したことで整備率が向上し、従前30点中の12点と評価されていたものが、10点に減少している。これは、一部の不安定な堆積土砂石に対する備えが整ったことによるものである。 被害軽減額については、保全区域内のインフラ整備の充実や物価変動等の影響により減少した。 	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	過去の災害実績、緊急度、災害発生危険度（評価法）	12 → 設定せず	10	被害軽減額	6,720百万円→設定せず	6,452百万円	<table border="1" data-bbox="1164 194 2042 421"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,300百万円</td> <td>1,500百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>H3～H18</td> <td>H3～H22</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td rowspan="3">未算出</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>1,089百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>3,292百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> （工期）用地交渉の遅延 当初は、1.3km余区間を実施する計画であったが、平成17年度の用地境界立会い時の権利関係者との面談、交渉の経緯等から、計画中間部に買収が困難な筆があることが判明した。 また、区間毎の溪岸浸食、河床低下の進行状況などを踏まえ、床固工の基数を増やすなど当初計画を見直し、流路の安定を図ることとし、計画中間部の用地取得困難な区間96mは、整備計画から除くこととした。 	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,300百万円	1,500百万円	工 期	H3～H18	H3～H22	経済効率性	費用	未算出	便益	1,089百万円	B/C	3,292百万円			3.0
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																											
過去の災害実績、緊急度、災害発生危険度（評価法）	12 → 設定せず	10																											
被害軽減額	6,720百万円→設定せず	6,452百万円																											
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																											
総事業費	1,300百万円	1,500百万円																											
工 期	H3～H18	H3～H22																											
経済効率性	費用	未算出																											
	便益		1,089百万円																										
	B/C		3,292百万円																										
		3.0																											
<p>②副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③副次効果</p> <table border="1" data-bbox="197 1171 1102 1267"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>被災時の被害波及の防止</td> <td>緊急輸送道路の保全</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 	項 目	内 容	被災時の被害波及の防止	緊急輸送道路の保全	<p>(3)事業実施による環境の変化 〈(有) 無〉</p> <p>①自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 溪流保全工の設置により溪岸浸食の危険がなくなり、自然荒廃の拡張が防止された。 <p>②生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 溪岸浸食の危険が無くなったこと、溪流保全工の管理用道路が整備されたことにより安全に通行出来るようになった。 本事業箇所は、南向き斜面を活用した果樹園（ぶどう園）が広がり、溪流保全工の管理用道路は、農業用道路としても利用され、農業振興にも貢献している。 <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> 化粧型枠、景観ブロック等を採用し、周囲の景観との調和が図られた。 <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈有 (無) 〉</p> <p>①社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>②関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③事業環境等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 																								
項 目	内 容																												
被災時の被害波及の防止	緊急輸送道路の保全																												

評価シート（2）

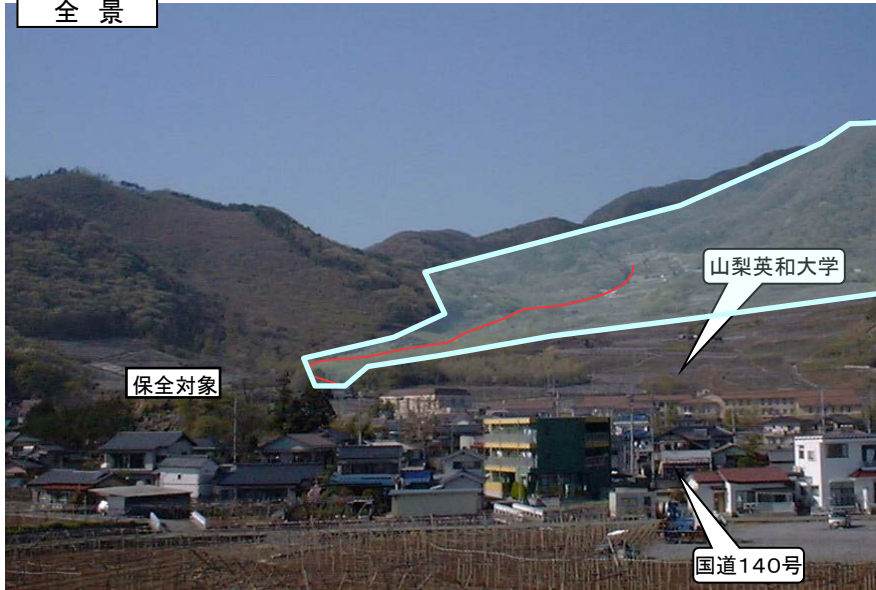
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無〉</p>
<p>(理由) 平成23年の台風12号（時間最大21mm、日雨量79mm）、15号（時間最大21mm、日雨量125mm）による猛烈な豪雨に見舞われたが、溪流からの土砂流出はなく、溪岸の安定性が確保され、土砂災害や溢水等の被害の発生はなかった。このことから事業の目標は達成されており、今後の事後評価の必要性はないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： 	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無〉</p>
<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無〉</p>

3. 添付資料シート（1）



添付資料シート(2)

全 景



①施工前
溪岸浸食状況



②施工前
河床堆積状況



③溪岸保全工



④溪岸保全工



⑤未整備箇所

